

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 27 年 6 月 8 日現在

機関番号：12613

研究種目：基盤研究(C)

研究期間：2012～2014

課題番号：24530677

研究課題名(和文) EU衰退地区の変容と地域再生政策の影響に関する比較研究

研究課題名(英文) A Comparative Study of Urban Regeneration Policy Impacts on European Deprived Districts

研究代表者

森 千香子 (Mori, Chikako)

一橋大学・大学院法学研究科・准教授

研究者番号：10410755

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 4,000,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、パリ郊外クリシー・スー・ボワ、アムステルダムスローテルフェールト、ロンドン北ウエストミンスターという異なる歴史的背景をもった三つの都市衰退地区において、2000年代以降にEUの支援を受けてそれぞれの国家がすすめてきた「地域再生」政策の内容を明らかにし、その地域への影響を各地区での現地調査にもとづいて検討した。そして三地区において、程度の差こそあれ、分極化の進行と都市中心部の再開発ニーズの高まりというマクロな構造変化のもと、同政策が地域に一定期間定住してきた住民のうちの最下層を地域から排除する影響をもたらしていることが明らかになった。

研究成果の概要(英文)：This study compared the impact of urban regeneration policies on local communities in three European deprived districts with different national and historical contexts: Clichy-sous-Bois in Parisian Suburb, Slotervaart in Amsterdam, Westminster North in London. Our Analysis revealed that, in these three districts, to varying degrees, the changes in the macroscopic structure and the increasing demand for urban renewal in the central city areas have helped to accelerate urban polarization but also to exclude the residents from the lowest classes.

研究分野：社会学

キーワード：都市社会学 エスニシティ 貧困 衰退地区

1. 研究開始当初の背景

(1) 1990年代以降、ヨーロッパでは衰退地区の状況改善を目的とした都市政策が国、地域、EUの三レベルで展開されてきた。主な内容は、地区の社会経済的ハンディキャップを認識し、公的資金を注入して地区の底上げを図る、衰退地区の住民の資源や能力を開発し「自己管理」を促す、衰退地区の問題がその他の都市部にも広がりがねないという認識に基づき、都市全体を対象とする政策を衰退地区で実験的に行う、の三点を柱とした社会政策が中心であった。

(2) ところが2000年代以降、ヨーロッパの都市政策に大きな方針の転換がみられるようになった。それは「地域再生 (rénovation urbaine)」の名の下に、Security(治安)が問題になる衰退地区の団地や住宅を解体除却するなど、都市構造のハード面の抜本的変化を促す政策が主流になったという点である。しかし、このような政策がもたらした「成果」に関するトランスナショナルかつ総合的な研究はこれまで十分に行われてこなかった。

2. 研究の目的

(1) パリ郊外(クリシー・スー・ボワ地区)を中心にとりあげながら、アムステルダム(スローテルファールト地区)、ロンドン(北ウエストミンスター地区)の三地区における基本情報・データを収集して、比較分析の枠組みを構築する。

(2) 三地区の実態が近年どのように変容し、それがどのようなメカニズムのもとで起きているのかを現地調査に基づいて明らかにする。L. ヴァカンらの提唱する「Social Insecurity」概念を中心に据え(Wacquant, 2011)、衰退地区の問題を治安だけでなく、雇用、住居、教育、政治、宗教、家族、地域コミュニティなど複数領域にまたがる「不安定」の帰結として多角的に考察し、複数の困難が特定の都市空間に集積するプロセスと背景を分析する。

(3) 衰退地区の変容に地域再生政策が及ぼしてきた影響を成果と問題点という二つ

の側面から再検討し、三地区の比較分析を通じて評価することである。具体的には、政策の成果を把握すると共に、政策が地区の構造やコミュニティをどのように再編成させ、それが結果的にどのような課題を新たに生み出し、地区を変容させているのかを具体的に明らかにする。その上で衰退地区の状況を抜本的に改善しようとする政策への手がかりを示す。

3. 研究の方法

(1) 問題の背景を整理し、分析枠組みを構築するため、三地区に関する資料(先行研究、統計などの公式データなど)を収集し、ア)三地区の現状を社会・経済・民族・都市空間などの側面から把握し、歴史的形成の過程や当該社会における同地区の位置づけの整理、イ)三地区で行われてきた都市政策の内容と背景、主体の多様性(地域、国、EU)を整理し、特に2000年代以降の地域再生政策への転換と背景の検討を行った。

(2) パリ郊外、アムステルダム、ロンドンの調査地区において聞き取り調査を実施し、そのデータを実証的に分析した。アムステルダムでは、アムステルダム自由大学のセバスチャン・ショバン准教授、ロンドンではエジンバラ大学のトム・スレーター講師と共同で調査をすすめた。また中心となったパリ郊外調査では、国立科学研究所のアレクシス・スピール主任研究員と協力して分析をすすめ、またパリ13大学のウルダ・ハリール研究員と共同で調査を行った。

(3) (1)と(2)で得られた結果・データの総括と、成果の発表準備を行い、その一部を発表した。

4. 研究成果

(1) パリ郊外クリシー・スー・ボワ、アムステルダムスローテルファールト、ロンドン北ウエストミンスターという三つの都市衰退地区はきわめて異なる歴史的・経済的・文化的背景をもっているにもかかわらず、2000年代以降、ほぼ同時期にEUからの支援を受け、それぞれの国家が主導するかたちで「再生政策」をすすめられてきたことを確認した。

(2) 現地調査の結果にもとづいて、(1) の枠組みでおこなわれた政策の内容が、三地区において多くの点で共通していることが確認された。その主な内容としては、政策がきわめてインフラ改革に特化する傾向をもち、その一方で、従来からヨーロッパで重視されてきた社会政策的取り組みについては、ほとんど予算が割られないという、特徴をもつことがわかった。

(3) 三地区において、程度の差こそあるものの、都市再生政策が地域に一定期間定住してきた住民のうちの最下層を地域から排除する影響をもたらしていることが明らかになった。このような現象の検討を通して、分極化の進行と都市中心部の再開発ニーズの高まりというマクロな構造変化と、都市再生政策が呼応するようなかたちで誘発されているのではないかと、という新たな問題関心を導き出すことができた。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計 16 件)

森千香子「在仏ムスリム移民をめぐる誤解—統合が進んだ故の「衝突」である」『外交』30号、2015年、pp.34-37(査読無)

森千香子「フランス郊外と都市政策の変容 貧困の撲滅から貧困の管理へ」『現代思想』2015年3月臨時増刊号総特集：シャルリ・エブド襲撃/イスラム国人質事件の衝撃 青土社、2015年、pp.126-132(査読無)

森千香子「過激派の根茎を涵養するイスラムバッシング 「パリ新聞社襲撃事件」を考える」『中東研究』no.522 中東調査会、2015年、pp.55-62(査読有)

森千香子「反ヘイトスピーチ法はレイシズムを抑えられるのか? フランスのイスラムフォビアの事例から」『日本の科学者』2014年12月号、日本科学者会議、2014年、pp.660-665(査読有)

森千香子「貧困地区再開発と ソーシャル・ミックス —パリ郊外の団地地域再生事業と地域住民への影響—」『理論と動態』7号、社会理論・動態研究所、2014年、pp.57-75。(査読有)

森千香子「フランスの社会政策の変容と移住女性 —家庭賃金労働推進政策の社会的帰結」『世界の社会福祉年鑑 2014年』旬報社、2014年、pp.41-58(査読無)

森千香子「レイシズムから見たフランスと日本—レイシズム=ヘイトスピーチではない」『別冊 環 20 なぜ今、移民問題か』藤原書店、2014年、pp.332-333(査読無)

Chikako MORI (Abdellatif Hammouche, H el ene Le Bail との共著) « Le Japon, pays d'immigration ? », *Hommes et migrations*, N o 1302, avril-juin 2013, 2013年、pp.7-11(査読有)

Chikako MORI « Esquisse d'une sociologie des banlieues au Japon : les cit es HLM   forte population  trang ere » *Hommes et migrations*, N o 1302, avril-juin 2013, 2013年、pp.45-56(査読有)

Chikako MORI « L'archipel invisible. L' criture dans les "cultures de banlieue" », *Hommes et migrations*, N o 1297, mai-juin 2012, 2012年、pp.68-79(査読有)

[学会発表](計 31 件)

Chikako MORI « Zaitoku-kai,  mergence d'un mouvement raciste au Japon : logiques et modes d'actions », Le colloque « Le grand  cart: la sociologie du sujet au global. Autour de Michel Wieviorka », Maison Suger, Paris, (France) (2014年9月25日)

Chikako MORI « Les banlieues, un espace sans  criture ? Place de l' criture dans les pratiques culturelles de banlieue », "The Banlieue Far from the Clich s: New Voices, Images and Identities Emerging from the

French Urban Periphery” Oxford Brookes University, Oxford (United Kingdom) (2014年4月4日)

Chikako MORI « Regards croisés France-Japon : le Japon contemporain au prisme des interrogations sur le racisme et le traitement des minorités en Europe », Séminaire CEE Sciences PO Paris, Paris (France) (2014年4月1日)

Chikako MORI « Logiques d'exclusions des politiques néolibérales » Symposium franco-japonais « Comment lutter contre la xénophobie aujourd'hui ? Exclusion, discrimination, participation en France », 東京日仏会館、東京都・渋谷区 (2014年3月1日)

Chikako MORI « Transformation du secteur de l'aide à domicile et condition des femmes sans papiers » Séminaire « Migrations, mobilités et pays du Sud », CNRS, Paris (France) (2014年1月6日)

森千香子「郊外の比較社会学ーグローバル化にともなう団地の変容を中心に」シンポジウム「住宅政策の新たな挑戦ー貧困化、高齢化と移民の社会にどう応えるか」東京日仏会館、東京都・渋谷区 (2013年7月6日)

Chikako MORI « Esquisse d'une sociologie comparée des banlieues entre le Japon et la France », Séminaire organisé dans le cadre du Projet ANR-Chorus ILERE, Université de Lille 1, Lille (France) (2013年3月20日)

Chikako MORI « Heterogeneity and instability : Another view on Japanese suburbs », ISA 2nd Forum of Sociology, « Social Justice and Democratization », Buenos Aires (Argentina) (2012年8月3日)

〔図書〕(計 5件)

森千香子編、『排外主義を問いなおすーフランスにおける排除・差別・参加』、勁草書房、2015年、272 p.

森千香子編、国境政策のパラドクス、勁草書房、2014年、272 p.

森千香子他、ヘイト・スピーチの法的研究、法律文化社、2014年、194 p. (pp.3-17.)

森千香子他、レイシズムと外国人嫌悪<移民・ディアスポラ研究3>、明石書店、2013年、232 p. (pp.148-156)

森千香子他、都市空間に潜む排除と反抗の力 差別と排除の[いま]2、明石書店、2013年、212 p. (pp.147-174)

6 . 研究組織

(1)研究代表者

森千香子 (MORI Chikako)

一橋大学・大学院法学研究科・准教授

研究者番号 : 10410755